

平成26年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、特色ある教育を創出する。</p> <p>2 基礎学力を身につけ、高校での学習を糧に将来の進路に向かって努力することのできる生徒の育成</p> <p>3 郷土の自然や文化に学び、前向きに地域社会とかわらうとする姿勢をもつことのできる生徒の育成</p>	<p>1 学力向上フロンティア事業」等を核とする取組を積極的に推進し、地域の将来を担う人材を育成する特色ある教育活動を進めることができた。今後も更なる改善に向けて実践していく。</p> <p>2 生徒の学力向上と進路希望の実現のため連携して粘り強く指導を行い、一定の成果をあげたが、学習意欲、自己肯定感の向上にはキャリア教育の視点を盛り込む等さらなる工夫が必要である。</p>	<p>1 業務の精選と分担、役割の明確化と協力協働による業務の効率化を進め、生徒と向き合う時間の確保に努める。</p> <p>2 将来設計に基づいた進路指導を行い、的確な進路情報の提供や生徒の学力分析を行い、進路指導部を中心として学校全体が一体となった組織的な進路指導を進める。</p> <p>3 地域を知り、地域と連携することによって、魅力と活力ある学校づくりを推進する。</p> <p>4 校内研修やOJTにより教員の資質・能力の向上を図り、教育活動の充実に努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	計画的・組織的な運営	各分掌が担当業務の年間計画を系統的に立案し、部長会議で連携を深め、課題を共有化することにより協働体制を強化する。	B	B 部長会議での連携はできたが、他の各種会議の中には、開催回数等において十分な機能が果たせていないものもあった。 教員の研究授業に府教委指導主事を招聘して研修を行った。また、若手教職員を中心とする相互授業交流会を実施した。（6月・11月・2月）
	教職員の資質能力の向上	若手教職員の増加に対応して、ベテラン職員の経験を活かした職場内でのOJTを推進し、相互に学び合う機会を増やし、若手教職員等の育成を図る。	B	
教育課程の編成と実施	全ての生徒が、「自信」と「誇り」を獲得できる学習活動の創意工夫	普通科、森林リサーチ科両学科について、シンプル、かつ、幅広い進路希望に応える教育課程の発展的な再構築の実施	B	本校が直面する教育課題を克服すると同時に、将来構想を踏まえた学校改革に即応できる教育課程・開講講座へと再構築した。
学習指導	学習指導に関する学校評価・授業評価アンケートにおいて肯定的な意見平均アベレージ85%以上の達成	知的好奇心をくすぐる授業内容と授業規律の徹底を両立させた「授業から始まる生徒指導」の実践	B	B 授業評価アンケートにおける肯定的な意見平均アベレージは81.6%であった。3年連続でデータは好転したが、目標達成にはいたらなかった。 重点目標達成のために掲げた具体的方策2項目を、次年度も、こだわりの持ちで追求する。
		教師が生徒を直接、指導助言する時間を倍増させるための教育計画の精選、教育環境の創出	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導	キャリア教育に基づく3年間の系統的、計画的な進路指導の充実	社会性や責任感を身に付けさせるため、キャリア教育をより一層推進する。 ----- 地域と連携した取組を行う。 ----- 教員研修の一層の充実を図る。	B B C	B	1年生の総合学習と連動して、数々の行事は推進した。 校外進路学習などについては、年次計画が定まっておらず、検討を要する。 模擬試験の活用について、新たな取組も始めたが、より効果的な活用をしたい。 補習体制について見直しを行ったが、更に次年度に向けて見直す余地がある。
	生徒一人一人を的確に把握した上での希望進路達成支援	実力テスト、模擬試験の分析を充実し、効果的な活用を図る。 ----- 生徒個々に応じた進路指導を進める。 ----- 資格取得の推進や家庭学習の充実を図る。	C B C	C	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と社会性・規範意識の養成	規則違反やマナー違反・不正を許さない指導を全教職員共通理解のもと実行する。 「挨拶」「時間を守る」「身だしなみを整える」といった当たり前のことが自然にできるように指導する。	B B	B	問題行動発生時、学年や分掌と協力し迅速に適切な指導体制を築くことができた。 「挨拶」「時間を守る」「身だしなみを整える」という柱に関しては、課題はあるものの一定の成果を得ることができた。
	問題行動の未然防止ができる体制づくりを進める	生徒指導部を中心に関係分掌や学年部との連携を密に取り、問題行動の防止に取り組むとともに教職員が一致した指導を行う。	B	B	
特別活動	自主活動の充実と積極性の養成	生徒会行事に意欲的に取り組むことによって、一人ひとりが主体的に学校生活を充実させようとする態度と責任感を養う。 ----- 地域活性化の行事やボランティア活動に自ら積極的に参加し活動する態度を養う。 ----- 生徒の部活動がより充実したものになるように環境整備に努める。	A A C	B	生徒会行事、ボランティア活動において、生徒主体の活動や運営をさせることができた。これらは今後も良き伝統として継続していきたい。 ボランティア活動に参加する生徒をさらに増やすため、啓発活動に努める。
健康・安全教育	保健管理、保健教育の拡充と充実	健康診断結果等に基づき健康指導の充実を図る。 ----- 「気が付く」心を育むため、積極的に清掃活動に取り組み、校内美化を図る。 ----- 適切な行動選択ができる力を育てるため、生徒の状況に応じた保健学習や保健だより等の情報発信を行う。	A A A	A	色覚検査や視力矯正指導が実施できた。色覚検査については対象者を専門機関へ引き継ぐことができた。 大掃除等において生徒の積極的な活動がみられた。 毎月旬の話題の保健だよりや、保健局員による保健局だよりによる情報発信ができた。 美化局員によるエコキャップ運動が定着した。また、ごみ箱の設置場所等の変更に伴いゴミ袋の消費が激減した。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
	教育相談、特別支援を要する生徒への指導の充実	スクールカウンセラー等の活用などにより教育相談活動を充実させる。 教科担当、担任、家庭等との連携を密にし実態に応じた授業改善への働きかけを行う。	A	B	<p>昨年に比べ保険申請件数が減少した。</p> <p>新入学生徒に関し中高連携が図れた。</p> <p>担任との連携強化により心配な生徒の早期ピックアップができた。</p> <p>教科担任や家庭との連携についてはさらに強化が必要。</p>
人権教育	人権に関する生徒の知識や理解の深化、及び差別や人権侵害を許さない実践的態度の養成	学年との連携を密にし、人権HRを効果的に行う。		B	B
	教職員の人権に関する知識や理解力及び指導力の向上	教職員人権研修会や広報などを行う。		B	
家庭・地域との連携	P T Aの充実と発展	各種事業の充実と会員へのP T A活動への積極的な参加を促す草の根啓発活動の取組を行う P T A活動を通して子ども達の心身の健康を育む取組や安全な教育環境を整える取組を推進する	B	B	B
	地域連携の推進	北桑田小・中・高P T A連携会議を中核にし通学圏内の教育課題を共通化し、その改善に向けた取組を行い北桑田高校の充実、発展に繋がる援助を行う		B	
	広報活動の充実と発展	広報活動（学校だより・P T Aだより・HP）によって学校情報を発信することで、開かれた学校づくりを推進する	A		
学校図書館	図書館の積極的な活用の推進	進路選択・希望進路達成のため、資料の充実・紹介などの支援を進路部と連携して行う。 知的好奇心をより充足させるため、教科と連携し授業内容にあわせた資料の紹介、学年と連携して特別活動、行事にあわせた資料の紹介を行う。 図書館教育会議や教職員研修の実施により図書館の活用に関する意見交流や提案を行う。	B	B	B
	読書の促進	二ーズにあわせた展示や広報により読書意欲を喚起する。 朝読の実施、図書委員会の活用、学年との連携等により学校全体で読書に親しむ雰囲気を作る。 P T Aや小中学校図書館など地域と連携して読書の習慣化、雰囲気作りを行う。	B	B	
	魅力ある森林リサーチ科の取組	各種の研修会や資格取得に励み、技術と安全管			農ク全国大会に7年ぶりに測量競技

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
農場部	みの充実と効率的・効果的な農場運営に努める。	理能力を高め、完成度の高い作品の創作に努める。 適切な農場管理及び演習林の管理に努める。 積極的な情報発信をおこなう。	B A B	B	B で出場を果たすなど積極的に取り組み成果を上げた。資格取得の奨励を行い講習会等を開催した。今後取得率の向上を目指す。校外での出前授業や各種発表会で生徒のプレゼン機会を増やし経験させる取り組みもできた。
	生徒の希望進路を実現させるために「みがく。かがやく。」を实践する	農ク活動や資格取得に活発に取り組ませる指導をする。 林業教育をとおして課題解決力、進路意識の高揚、プレゼンテーション能力などを養う。	A A	A	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	遅刻・欠課を無くし、落ち着いた環境で授業を受けられるようにする。服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてふさわしい態度と規範意識を身に付けさせる。	A	B	遅刻・欠課はほとんどなく、落ち着いた環境で授業は展開されている。家庭学習については、まだまだ充分と言える程には取り組めていない。部活動への加入率は高く、学習との両立をどのように図っていくかが課題である。
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加	家庭学習の習慣を定着させ、基礎学力をつけさせる。部活動への積極的参加を促し、学習との両立をはかれるよう、各分掌・教科さらに地域・家庭と連携して支援する。	B		
第2学年	第2学年として望ましい生活態度・学習態度を培い、希望進路達成に向けた実力を付ける。	けじめのある学校生活を送り、他者の気持ちを理解しようとする生徒を育てる。 各教科担当との連携を密にし、学習状況を把握し希望進路の決定に繋げる。 学校・学年行事等を積極的に取り組み、達成感や自信を持たせる。	C B A	B B	B 部活動や研修旅行を通して、学校の中心となって活動しようとする、自覚や自信がついてきた。学校生活に慣れきってしまい、緊張感が持てない学習状況が見られた。3学年に向け、自己実現を真剣に考えさせるようにしなければならない。
	保護者連携の強化	様々な機会を積極的に利用し、保護者と生徒の状況交流を行う。	B	B	
第3学年	進路希望の実現	進路指導部、保護者との連携を密にし、生徒の現状をしっかりと把握する。 個々に応じた細かな指導を心がけ全員の進路決定へと導く。	B B	B B	B 必要に応じて不定期に面談を行い生徒自身に現状を把握させ志望校決定に繋げた。進路指導部との連携を軸に個別対応・指導を細かく行えた。学年通信の発行、進路激励会などクラス単位・学年単位で生徒への語りの場を設定できた。
	最高学年として模範的な学習態度・生活態度を实践できる生徒の育成	生徒との対話を重視し、LHR・学年集会で学年団の思いを語りかける場を多く設定する。 保護者と常に連携がとれる関係を維持する。	B B	B B	
寮務部	円滑な寮生活を送るための、規則・ルールの徹底	寮生との対話を充実させ、愛情ある指導を行う。規則厳守の徹底に努める。	B	B	B 当初は、全体的に落ち着かない行動も見られたが、以降は落ち着いて寮生活を送れるようになった。寮全体から見れば、規則・ルールは守れているが、個々の生活習慣の向上が必要。一人一人との対話を充実させるとともに学習の定着が課題。
	安全で安心して生活するための寮生・保護者・各分掌との連携強化	寮生活に関する情報の共有化に努め、舎監相互の連携に努める。 業者（調理委託会社）との連携に努め、定期的な食事内容の検討にも努める。 登下校時の通学安全の確保及び、地域との連携。	B A B	B B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
	生活環境の維持及び施設の充実	施設、設備の点検、改善を行い、環境整備の充実にも努める。	B	B	
事務部	教育環境・条件整備のための積極的、効果的な予算執行	施設・設備の点検を行い、安心・安全な教育環境を提供する。 分掌、教科等の教育目標に配慮し、効果的な予算執行を適正に行う。	B	B	B
	学校運営への積極的な参加	教務部会議、進路指導部会議及び農場会議に参加して学校運営の情報等を事務部で共有し、また各分掌等と連携を強化して、必要な教育環境・条件の改善と充実を図る。 研修やOJTにより担当事務能力の向上に努め、学校業務の改善に向け事務職員の役割を果たす。	C	B	
<p>日常の点検等により漏水や防災設備の不具合を発見し、早期に改修した。老朽施設設備の改修改善等、今後の課題は多くある。</p> <p>分掌、教科等の要望を聞いて適正で効果的な予算執行ができた。バスケットゴールを電動式に改修、林業機械整備と不要機械の撤去、寄宿舍設備の改善等を行った。</p> <p>学校全体や分掌等の状況を踏まえ、教育活動の充実に向けた条件整備のため、事務職員から適切な提案や助言が出来る必要がある。</p> <p>担当事務分掌を変更したが、各事務職員が補完しながら適正に学校事務業務を行った。</p>					

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>① 研究授業や自主的な授業交流会は、教員の授業力向上のために有効であり、今後も一層の充実を望む。</p> <p>② 地域との関わりがどれだけもてるかが大事であり、「まちキャン」の取組は大変有意義なものであるため、今後も継続するべきである。</p> <p>③ 生徒の挨拶・言葉遣いは指導がよくできている。社会に出ても通用する人間の育成を大事にするべきであり、礼儀正しさなどこの地域の生徒のよさをアピールしてほしい。</p> <p>④ 森林リサーチ科の取組をはじめ学校のよさが、中学生や地域に十分伝わっていないのではないかと。広報活動に工夫が必要である。</p> <p>⑤ 安全教育については、自転車通学者の交通安全指導や完全下校時刻の厳守・校内生活の一層の安全確保などにも努力して欲しい。</p> <p>⑥ 全体的には的確に評価されているが、一部低評価をされているところについては、次年度の課題として捉え改善に努めていただきたい。</p>
-------------------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>① 地元中学生、保護者のニーズを的確に把握して教育改善に努め、地元中学からの志願率を上昇させる。</p> <p>② 「学力向上フロンティア校」としての「まちキャン」の取組を継承し、生徒の学問への意欲・関心を高める。</p> <p>③ 教育課程の見直しを踏まえ、進学に対応する学力を身につけさせ、生徒の希望進路の実現を図る。</p> <p>④ 将来を見通し少子化による生徒減少に適切に対応するため、魅力ある学校づくりを組織的に推進する。</p>
---------------	--